

## 2022年 東北大学前期日程試験【国語】問題分析

### 1 今年（2022）の傾向

#### 総評

昨年から試験時間が150分になったことで、受験生がじっくりと解答を練ることがしやすくなった。全く何を書いたらよいのかわからないような問題はないが、一つ一つの問いで深く考え、それを言葉で正確に表現する力を大学側も求めていると思われる。現代文・古典ともに、徹底した過去問演習と信頼できる指導者によるアドバイスで対策を立てることは必須である。

#### 現代文

評論は小林秀雄の用いる「合理的」の意味を探っていく文章、小説は主人公のシングルマザーが、「施し」を受けることをめぐって葛藤する話であった。前者は論理の展開、後者は心情の変化を本文の誘導に従って丹念に追う力が試されている。また、自分が読みとったことを他人が読んでもわかるように表現できる力も強く求めていると思われる出題であった。

合否ライン（予想）※他の教科が合格ラインをとったときの得点（％）予想

文学部	65%	法学部	65%
教育学部	60%	経済学部	60%

#### 来年受験する生徒へのアドバイス

機械的に本文の言葉を引き写すのではなく、自分の解答が「結局どういうことを説明しているのか」を常に考える習慣をつけてほしい。

#### 古文

出典は『俵藤太物語』。主人公である俵藤太秀郷が平将門を討ち果たした場面が描かれている。本文は昨年よりも読みやすかったのではないかと。語の意味や口語訳の問題も易しかった。論述問題の制限字数もそれほど厳しいものではないので、知識よりも本文の読解力や思考力・表現力が問われているのであろう。昨年同様、標準的な難度の良問であったと言える。

合否ライン（予想）※他の教科が合格ラインをとったときの得点（％）予想

文学部	65%	法学部	65%
教育学部	60%	経済学部	60%

来年受験する生徒へのアドバイス

辞書を使わなくとも大意が取れるレベルの文章をたくさん読んで欲しい。

漢文

出典は陶望齡「養蘭説」。筆者は以前どこかで聞いた「蘭を育てるのには茶をかけるのがよい」という話を頑なに信じており、他人からの忠告にも耳を傾けない。しかし実際に蘭を枯らしてしまったことで、やはり肥料を使って育てるのがよいと気づくことになる。設問の誘導も参考にしながら、話の展開を手際よく追いかける力が求められていた。

合否ライン（予想）※他の教科が合格ラインをとったときの得点（％）予想

文学部	65%	法学部	65%
教育学部	60%	経済学部	60%

来年受験する生徒へのアドバイス

抽象・具体や対句など、語と語の関係に注目しながら読む訓練をしよう。